



「忍者寺みたいな家がいい！」 そんな要望から展開した家づくり。

空間を最大限に有効活用した結果、ロフトや和室、階段下...隠れ場所は盛り沢山。

でも、バルコニーを介せば大人数で楽しめる大空間に。

時には一人で、時には皆で...

お互いの気配を感じつつ、家族それぞれが、お気に入りの場所で過ごせるお家になりました。

家具から始まる家づくり。

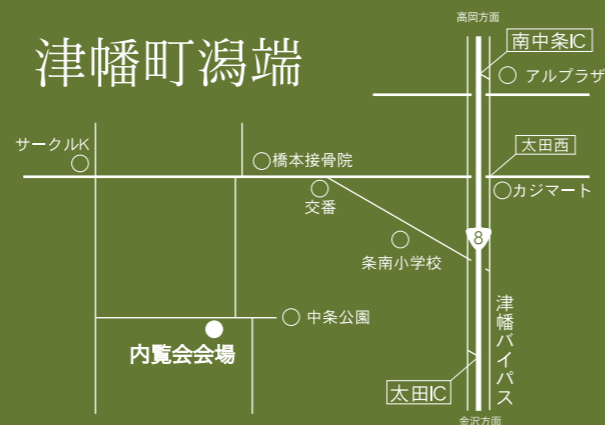
新築住宅 内覧会開催

VOL.12

3 / 19^{sat} · 20^{sun} · 21^{mon}
open — close
10:00 — 18:00

※混雑時予約制

津幡町潟端



※8号線よりお越しの方は「太田IC」(金沢方面)、「南中条IC」(高岡方面)で御降り頂き、誘導看板を目印にお越しくださいませ

※道に迷われた方は下記の番号へお電話下さい

tel.076-213-5505
www.zuiun.jp

3月になり、ようやく春の暖かさを感じられると思った矢先にまた雪が降ったりと、まだまだ体調管理には気をつけたいものです。

さて、今回は「生活の中で隠れたスペース」について考えてみたいと思います。

わかりにくい言葉を使いましたが、要はデッドスペースと呼ばれる小屋裏や床下、階段下など普段使うことが出来ないような空間の活用方法について考えてみたいと思います。

一般的によく利用されている方法としては、階段下や小屋裏に収納を設けたり、部屋の隅の形状にあわせて多角形の棚を作ったりしているのをよく見られると思います。

では、なぜそんなに収納が必要なのか？

家の中の収納についてこんな実験結果があるそうです。各国の平均的な家庭に「家の中の荷物をすべて外に出して下さい」とお願いしたところ、十数ヶ国の中で日本がダントツに荷物が多かったそうです。この結果からもわかる通り、日本人は物持ちが良く大切に保管する性格なのです。(けして物が捨てられないのではないと思ってます)

そんな荷物を多く保管する日本人にとって収納が増えるというのは単純に便利なことですし、デッドスペースの活用方法としても有効な手段だと思われまます。見せる収納という言葉もありますが、家の中にある大部分は見せたくない荷物の多いのですから。

また、このような空間には荷物を収容するという以外にも魅力があります。

それは、「日常から離れた楽しい空間」であるということ。

いや、正確には「楽しかった空間」という表現がしっくりくるかもしれません。私自身も楽しかった思い出があるのは子供の頃ですから。



左写真
階段下を可動式の本棚に。
収納数は1500冊相当。



右写真
階段下を陳列用の収納棚に。
下部には蓄熱暖房機を収納。

私と同じような思い出を持っている方はたくさんいらっしゃると思います。

たとえば、懐中電灯を持ってハシゴを登り、小屋裏収納を探検したり、ネコ型ロボットのように入れたら寝てみたこと...大人になった今では長時間居られないような空間に何時間もこもり、色々な物を持ち込んで遊ぶことの出来る素敵な遊び場でした。

でも、なぜ子供の頃は楽しかったのでしょうか

天井が低い小屋裏や、ふとんなどが高々と詰まれている押し入れなど大人が入ってこない子供のテリトリーとなっていてのりかもしれません。そんな中に自分の好きなおもちゃやゲームなどを持ち込んでしまえば居心地のいい秘密基地が出来上がります。

そしてもう一つ私が考える魅力は

「いつもと違う日常の雰囲気」というものがありました。

小屋裏を収納として利用している家には、換気などを行う小さな窓が設置されていることがあります。大人の頭が通るかどうかというぐらいの大きさの窓ですが、暗い小屋裏を進んで行った先でその窓から見る景色は、普段生活しているどんな時よりも高い視点から、見たことの無い景色を見ることが出来る、いつもの家の周りがまったく違う世界にきたような不思議な錯覚に陥った覚えがあります。

また、耳をすませば自分以外の家族の声や生活の音が小さく聞こえてきて、姿は見えずとも気配は感じる事が出来る不思議な距離感を味わうことも出来ます。

しかし、大人になるといつの間にかこのような感覚は無くなり、また、そのような空間に身を置くこともなくなりまます。

家づくりを計画していく中でムダなスペースは作りたくないのは当然です。そして、空いているスペースを収納にしていくのは有効な方法です。しかし、どこもかしこも収納とするのではなく、普段の生活と違った場所に見つけた視点を向けられる空間があると、いつもの生活をもっと楽しくする発見が見つかるかもしれません。